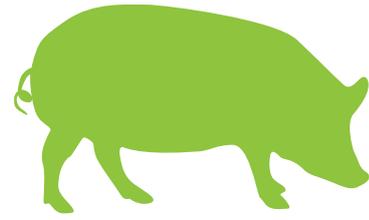


豚肉

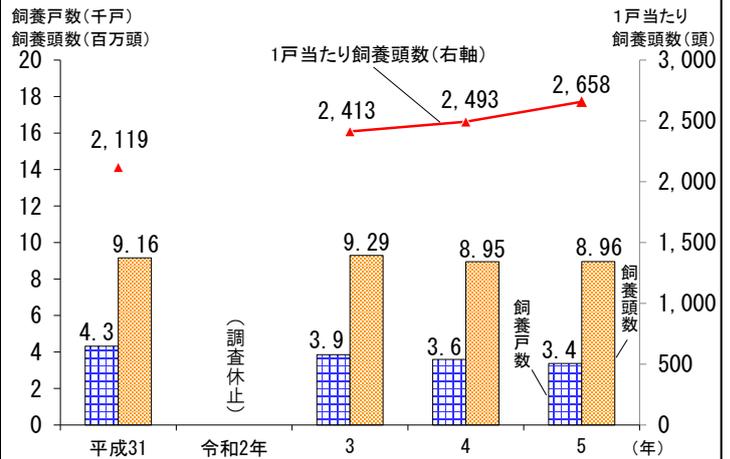


◆飼養動向

5年2月現在の1戸当たり飼養頭数、前年比6.6%増

豚の飼養戸数は減少傾向で推移しており、令和5年は、3370戸（前年比6.1%減）と前年からかなりの程度減少した（図1）。総飼養頭数は、896万頭（同0.1%増）と前年並みとなった。1戸当たり飼養頭数は、164.8頭増加して2657.6頭（同6.6%増）となった。また、5年の子取り用雌豚の1戸当たりの飼養頭数も13頭増の299.9頭（同4.5%増）となった。小規模生産者を中心として飼養戸数が減少したものの、1戸当たり飼養頭数は増加し大規模化が進行している。

図1 豚の飼養戸数および飼養頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」

注1：各年2月1日現在。

注2：令和2年は2020年農林業センサス実施年のためデータなし。

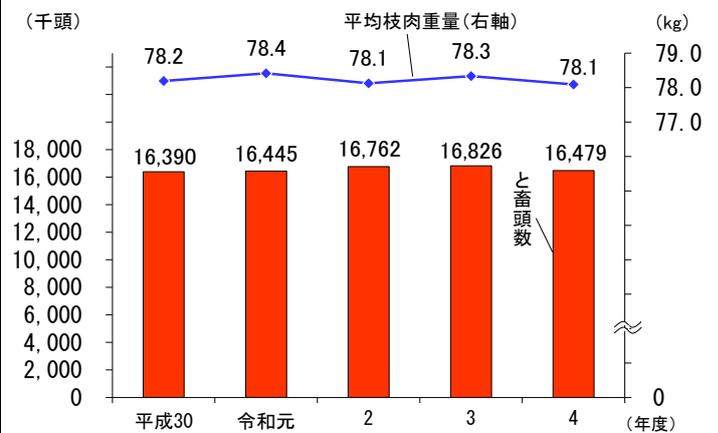
◆生産

4年度の生産量、前年度比2.3%減

豚のと畜頭数は、畜産クラスター事業の取り組みや暖冬などの影響から、近年はおおむね増加傾向で推移していた。令和4年度は、廃業による飼養戸数の減少などに伴い、1647万9271頭（前年度比2.1%減）と前年度をわずかに下回った（図2）。

また、同年度の1頭当たりの平均枝肉重量は、78.1キログラムと前年度を0.2キログラム下回った。

図2 豚のと畜頭数および平均枝肉重量の推移

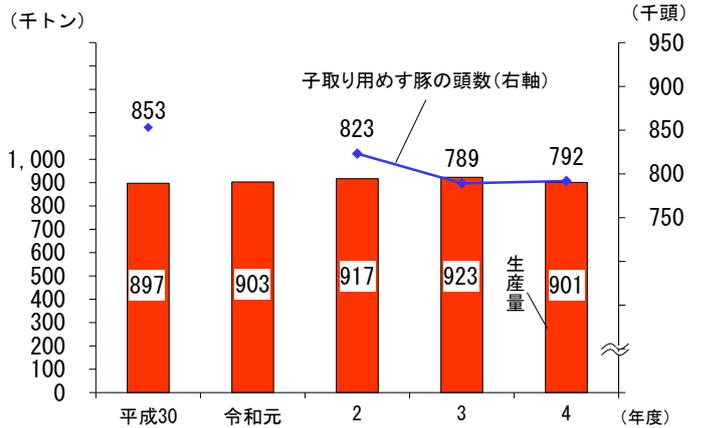


資料：農林水産省「食肉流通統計」

注：平均枝肉重量は全国平均。

生産量については、前述の通り、畜産クラスター事業などの取り組みなどにより、平成30年度以降増加傾向で推移していたが、令和4年度は、廃業による飼養戸数の減少などから90万1009トン（同2.3%減）と前年度をわずかに下回った（図3）。

図3 豚肉生産量および子取り用めす豚の頭数の推移



資料：農林水産省「畜産統計」、「食肉流通統計」
 注1：生産量は、部分肉ベース。
 注2：子取り用めす豚の頭数は、各年度2月1日現在。
 令和元年度は
 農林業センサス実施年のためデータなし。

◆ 輸入

4年度の豚肉輸入量、前年度比3.9%増

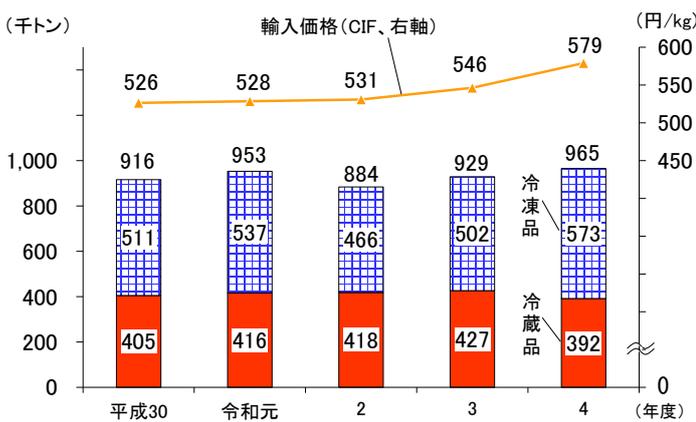
豚肉

豚肉の輸入量については、冷蔵品は、国内での好調な需要などから増加傾向で推移している。冷凍品も、EU諸国からの輸入量の増加や、カットなど技術面の向上によりメキシコ産などの輸入量が増えたことなどから、増加傾向で推移している。

39万1789トン（同8.2%減）と前年度をかなりの程度下回った。冷凍品はEU産の現地相場が下がっていたことなどから、57万3308トン（同14.2%増）と前年度をかなり大きく上回った。

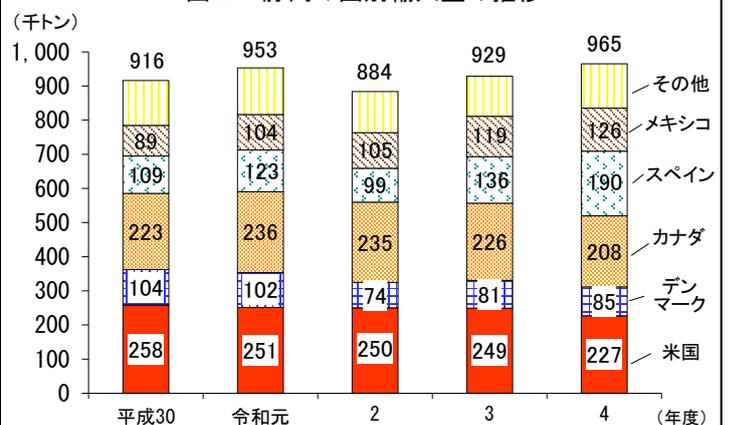
また、4年度の国別輸入量は、米国産が22万6712トン（同9.0%減）、カナダ産が20万8376トン（同7.9%減）と前年度から減少した一方、スペイン産が18万9502トン（同39.1%増）、メキシコ産は12万5982トン（同6.2%増）、デンマーク産が8万4612トン（同4.0%増）と前年度から増加した（図5）。

図4 豚肉の輸入量および輸入価格の推移



資料：財務省「貿易統計」
 注1：部分肉ベース。
 注2：合計にはくず肉を含む。

図5 豚肉の国別輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」
 注1：部分肉ベース。
 注2：くず肉を含む。

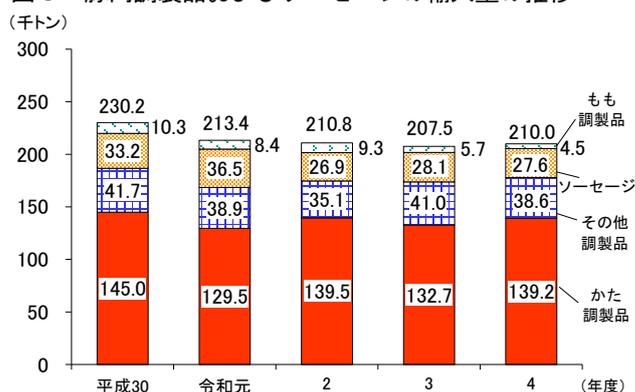
令和4年度は、96万5144トン（前年度比3.9%増）と前年度をやや上回った（図4）。このうち、冷蔵品は北米産の現地相場の高止まりなどにより、

豚肉調製品・ソーセージ

豚肉調製品やソーセージの輸入量については、底堅い需要がある中で、現地相場の変動に伴う増減を繰り返している。

4年度は、かた調製品の輸入量が前年度を上回った一方、もも調製品、その他の調製品、ソーセージの輸入量は前年度を下回った（図6）。豚肉調製品全体の輸入量は、20万9928トン（前年度比1.2%増）と前年度をわずかに上回った。

図6 豚肉調製品およびソーセージの輸入量の推移



資料：財務省「貿易統計」

注1：もも調製品：160241090（関税率20%）。

注2：かつら調製品：160242090（関税率20%）。

注3：その他調製品：160249290（関税率20%）。

注4：ソーセージ：令和3年12月まで160100000（関税率10%）。令和3年1月から160100900（関税率10%）。

◆消費

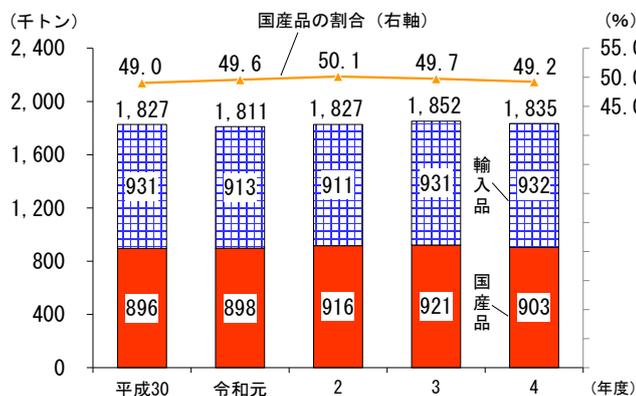
4年度の推定出回り量は前年度比0.9%減、家計消費量は同1.3%減

推定出回り量

豚肉の推定出回り量は、近年の好調な豚肉消費を背景に増加傾向で推移している。

令和4年度は、COVID-19の影響による巣ごもり需要の服感が見られたことから、国産品は90万3439トン（前年度比1.9%減）と前年度をわずかに下回った一方、輸入品は93万1666トン（同0.1%増）と前年度並みとなった（図7）。この結果、全体では183万5106トン（同0.9%減）と前年度をわずかに下回った。なお、合計に占める国産品の割合は49.2%（同0.5ポイント減）と前年度を下回った。

図7 豚肉の推定出回り量の推移



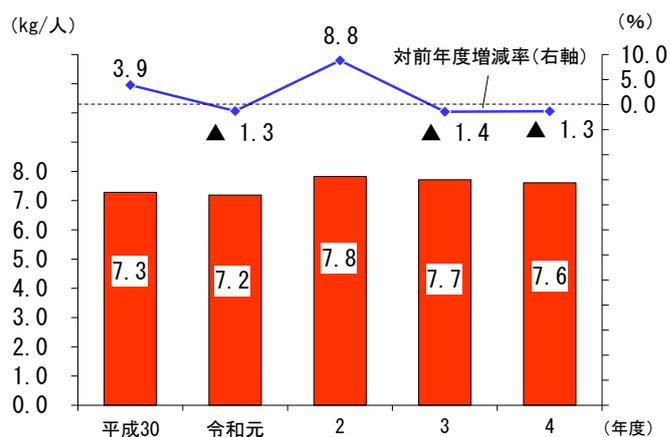
資料：農畜産業振興機構推計

注：部分肉ベース。

家計消費

豚肉消費の約6割を占める家計消費については、年間1人当たりの豚肉の家計消費量を見ると、4年度は、巣ごもり需要に服感が見られたことなどから、7.6キログラム（前年度比1.3%減）と前年度をわずかに下回った（図8）。

図8 豚肉の家計消費量（年間1人当たり）の推移



資料：総務省「家計調査報告」

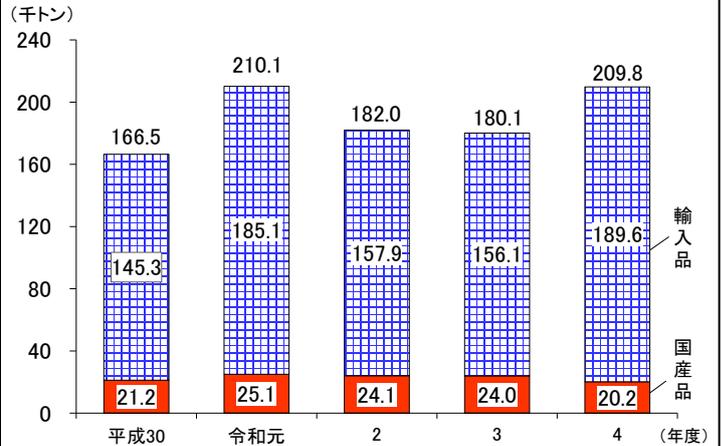
◆在庫

4年度の推定期末在庫量、前年度比16.5%増

豚肉の推定期末在庫量については、約9割を輸入品が占めており、そのうち9割強を冷凍品が占めている。このことから、推定期末在庫は輸入量の影響を受け、増減を繰り返しながら推移している。

令和4年度は、国産品は、生産量の減少などから、2万232トン（前年度比15.7%減）と前年度をかなり大きく下回った（図9）。輸入品は、冷凍品の輸入量が増加したことなどにより、18万9572トン（同21.4%増）と、前年度を大幅に上回った。この結果、合計では20万9804トン（同16.5%増）と前年度を大幅に上回った。

図9 豚肉の推定期末在庫量の推移



資料：農畜産業振興機構調べ
 注1：部分肉ベース。
 注2：四捨五入の関係で、合計値は必ずしも一致しない。

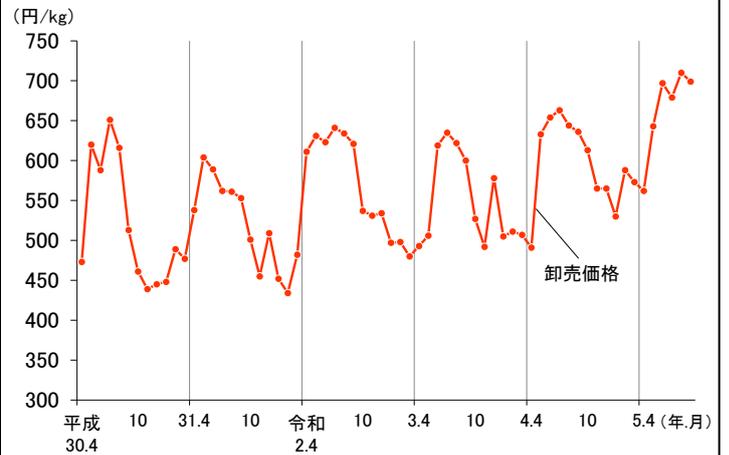
◆枝肉卸売価格

4年度の枝肉卸売価格、8.5%高

豚枝肉卸売価格（東京、上規格）は、出荷頭数が少なくなる春から夏にかけて上昇基調で推移し、出荷頭数の増加する秋ごろから低下する傾向にある。

令和4年度は、海外現地相場の高騰や円安により高騰していた輸入品の代替需要などから、価格は例年より高い水準で推移した（図10）。年度平均では1キログラム当たり 596円（前年度比8.5%高）となった。

図10 豚枝肉の卸売価格（東京、上規格）の推移

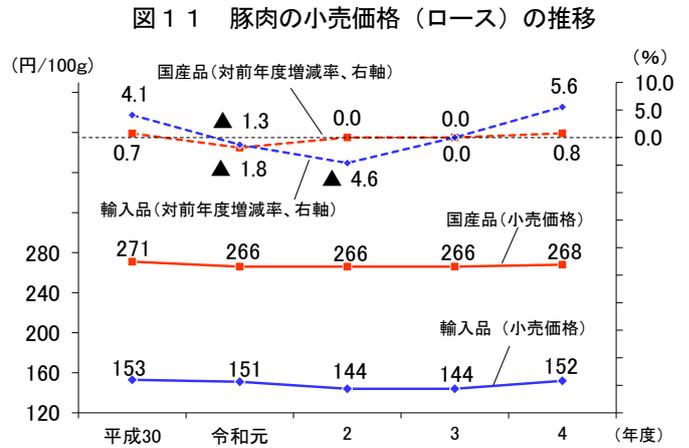


資料：農林水産省「食肉流通統計」
 注：消費税を含む。

◆小売価格

4年度の小売価格、国産品および輸入品いずれも上昇

令和4年度の豚肉の小売価格（ロース）については、国産品は、生産量が増加したものの、100グラム当たり268円（前年度比0.8%高）と前年度をわずかに上回った（図11）。また、輸入品は、輸入価格の上昇などもあり、同152円（同5.6%高）と前年度をやや上回った。



資料：農畜産業振興機構調べ
注：消費税を含む。